

第7回 中部 MIST 研究会ハンズオンセミナーに参加して

医療法人 富田浜病院手術室 看護部 田中粧子

2017年3月に三重の津市で中部 MIST 研究会が開催される事を聞き、ファカルティとして参加させて頂くこととなりました。ファカルティという大役で参加させて頂き、先生や受講生の方に迷惑をかけてしまっていたような気がしますが、大変良い時間を過ごすことができました。

脊髄手術にもさまざま手術方法がある中で、最近行っている MIST は、創部内を把握しにくく、感覚と経験で言われるがまま器械を医師に渡すことも少なくありません。「わからないから仕方がない。感覚で、経験で、言われたものを渡すしかない！」というのは手術室看護師としていけない事だと思いつつも、なかなか医師の考えや思いはわからないもの。でもその中で、少しでも理解できたら、器械のタイミングなどもっと上手にできるのではと思い、今回 MIST 研究会に参加させて頂きました。MIST は患者様には低侵襲ではあるが、医師はもちろん看護師にも難易度は上がる手技ではあります。

今回の研究会では、これから脊椎手術を習得しようとしている方、復習したくてという26名の参加者と共に良い時間を過ごせました。参加者は5つのグループに分かれメーカーさんに器械を提供して頂き、各テーブルに医師、看護師、担当メーカーの3人の配置。参加者はそのファカルティである先生からの説明を聞き、器械を触って模擬脊椎に執刀するなどの体験をしました。

私もファカルティでの参加でしたが、日々メーカーさんより手技や器械に関する説明を聞くだけで、忙しい手術中に器械を受け取り、順番通り覚え渡せて手術が無事終わればいいと思っていたこともありました。しかし、後輩ができ根拠を教えながら指導することに勉強不足だと痛感していました。そんな中で、今回の MIST 研究会に参加させていただくことで、器械の特徴から手術手技の説明など、根拠やポイントをファカルティの先生方に丁寧に講義していただきました。手術操作の中で、個々で学習しても得られないようなこと、医師の視点での操作や特に重要なところも教わることができました。また、「ここでは神経とがらせているから、ちゃんと器械は渡した方が医師のストレスも少ないよ」など医師の考えや思いも笑いを交えて優しく講義していただきました。

ファカルティとして参加させて頂いた私自身も復習もでき、医師の思い考えが少し見えた気がしてとても有意義な時間を得る事ができました。

参加者は緊張しながらも、積極的に器械に触れたり質問したりと、参加されていた方の目はとてもキラキラしていました。終了後には、「少しわかったね」、「イメージついたね」、「忘れないうちにやってみたいね」という声が聞こえてきていました。

一緒に参加させていただいた同僚も、脊椎手術は怖い、難しい、嫌という悪いイメージでしかなかったが、「参加してイメージがついたし、楽しかった。今後やってく上でとても勉強になった」と、とても喜んでいました。

最後になりましたが、貴重な体験と学習機会を与えて頂いた先生方、MISt研究会の皆様、メーカーの方々に感謝申し上げます。

平成 29 年 3 月 26 日

